

平成 30 年度第 2 回山鹿市子ども子育て会議 議事録

- 1 開催日時 平成 31 年 1 月 28 日（月） 15：00～
- 2 開催場所 市役所 4 階 402 会議室
- 3 出席者
【委員出席者 14 名】
伊藤会長、阿蘇品委員、相原委員、迎田委員、木村委員、有働委員、星子委員、松見委員、廣瀬委員、菊川委員、徳永委員、渡辺委員、大森委員、宇野木委員
【事務局 8 名】
大森部長、村上課長、山下審議員、原課長補佐、古川係長、清田専門員、永田主任主事、野見山主任保育士、
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状交付
 - (3) 「山鹿市子ども憲章」唱和
 - (4) 市長あいさつ
 - (5) 会長・副会長選出並びにあいさつ
 - (6) 議事
 - ①子ども・子育て支援事業計画
アンケート内容の検討

○計画作成スケジュールについて
 - ②その他
 - (7) 閉会

～議事～

【会長】

平成 30 年度の第 2 回目の開催になります。議事としましては、子ども子育て支援事業計画のアンケート内容の検討と第 2 期計画作成のスケジュールについてお諮りをしてみたいと思います。それでは早速、事務局より説明を求めます。

【事務局】

今回、子ども子育て支援事業計画のアンケート内容の検討について説明いたします。まず、このアンケートがこういった形で反映されるかといいますと、13 事業並びに保育園

の入園関係の量の見込みを算出するためのアンケートということで、統計を取るということになっております。

資料1-1、1-2とありますが、こちらが今回、ニーズ調査を行うためのアンケート調査になります。こちらは、前回のアンケートを基本にして、平成30年8月に国から出されました、第二期市町村子ども子育て支援事業計画における、量の見込みの算出等の考え方を参考に、アンケートに反映が必要な項目を中心に、赤字で追加を行っております。追加の項目を順に説明させていただきます。資料1-1の4ページ問8に2項目追加しております。8ページ、問11-1、オを追加しております。9ページの問12-1、ここは、共働き家庭の幼稚園利用について、正確にニーズを把握するよう追加項目としてあがっているところを追加しています。問11-2カ、クを具体的に記入いただくよう追加しています。問の13、平成31年度10月から3歳以上の保育料が無償化になり、国の動向を踏まえるということで、現在利用している、していないに関わらず、質問していません。次のページ10ページ、問16、前回の質問に3つ追加しています。11ページ、問17-1、休日、長期休暇中の理由希望について、理由を問う項目を追加しました。14ページ、問25は、高学年4年生から6年生という大まかな項目だったのですが、今回は、学年ごとの量の見込みを算出というところで、何年生まで利用したいか書いていただくようにしています。次のページ、育児休業についての質問で、問26イからを追加項目としています。0歳児保育の量の見込みとして、現在の育児休業取得状況と実際に取得した期間、希望の期間をより詳しくお尋ねしています。年度当初から年度末にかけて、段階的に利用者数が増加するということで質問を追加させていただきました。18ページの問27、28、29を追加項目としています。

資料1-2、6ページ、問11、高学年で何年生まで利用したいかお尋ねをしています。問16は、前回の項目に4つ追加しています。問17も2つ追加しています。11ページについても追加させていただきました。以上が今回追加をさせてもらっている内容になっています。

資料2-1、7ページの青字部分、10ページの12-2平日に利用されている理由についてというところを今回は省いています。9ページ、山鹿市には無い施設なので省いています。資料2-2、6ページ、問10から問13までの部分は、質問の内容を変えています。

前回、就学前の調査が1,200件。小学生が800件。トータル2,000件。就学前は、0から5歳までを無作為に抽出してアンケートを実施。小学生は1年生から4年生までの無作為の抽出。回収率については就学前が45.3%。小学校が48.0%の回収率ということで、これを元に今行っております計画の見込み数を算出しております。前は委託業者を入れて調査を行いました。今回は、来年度4月以降すぐに調査を実施し、直近の動向をアンケートで把握させていただき、計画に反映していきたいと考えています。今回アンケートの発送、集計に関しては、委託を入れずに全て職員で行うよう進めておりますので、皆様のご意見をいただき、今日内容を決めさせていただいた上で、すぐに発送できるように整理させていただきたいと思っておりますので、宜しく願いいたします。

【会長】

それでは質問、ご意見等お受けしたいと思います。

【委員】

資料1-1 幼児教育、保育の無償化になった場合、質問内容はこれでいいと思いますが、幼児無償化対象を知らない人がいらっしゃると思うので、説明が必要なのではないのでしょうか。問20以降についても、無償化対象になるものは説明追加が必要なのではないかと。国の提示として、子ども子育て支援法に基づく一時預かり事業、病児保育事業及びファミリーサポートセンター事業も対象である。ファミリーサポート事業の利用率の低さの問題も挙がっているので、無償なら利用したいかという項目も必要なのでは。必要とあれば表紙の裏の用語の定義、無償化等についてどういった事業か、年齢が対象となるのか添付してはどうか。サポート事業等も無償化になると利用したいかという質問も加えたらどうかと思います。

【事務局】

ファミリーサポート等の事業をご存知ない方もいらっしゃるのでは、説明を追加する形で整理をしていこうと思います。

【会長】

事務局の方でも検討されてください。

【委員】

0歳児の途中入園に関して、預けたくても保育士数が少なく、待機幼児という話を聞いていますが、育児休暇を利用したくても使えないのではないかと思います。一番問題なのは、保育の先生方がギリギリの状態でなり手がなく、給料が安い等があると思いますが、その部分は、検討されているとは思いますが、民営化が進んでいることもあり、どうなっていくのか、保護者のニーズの変容で0歳児の入園希望が多いということはどう捉えていくのかを考える余地があるのかなと思います。

【事務局】

育児休業についてアンケートの16、17ページで意見をいただいて、参考にさせていただきます。今、国が働き方改革で、早く働きに出てくださいと周知している。その為に、早く子供を預けられる環境を作りなさいとの国の方針があるのですが、今山鹿で0歳児を早く預けることが子供の成長の為にいいことなのか考えなくてはいけないところでは。実際0歳から手を離して、子供の成長を自分の手の中で見られない。今後の子供たちが、次の世代で自分も子供を産み、育てたいと思えるのかという部分も含めて、子供を多く生み育てるというところで、0歳もしくは3歳位まで自分でしっかり見て、それから働きに出るという環境整備の在り方も考えておかないといけないのかなというところでは。このアンケートで、育児休暇をどういった形でとられているのか調査することで、皆様の考えや意向、金銭的にどうしてもという方も多いかもかもしれませんが、そういうことばかりではなく、今は預けて仕事にいけるのですが、次の子供たちが将来子供はいらないと思ってしま

うと、子供が減っていってしまう。子供たちが産み育てたいという愛着形成であるという部分も、子育て支援だという上で、アンケートを取り、32年度からの計画に活かしていきたいと思います。

【会長】

そういった議論や考え方は、アンケートの結果が出て議論するというので、アンケート調査としてはここを変えたいというところがありますか。

【委員】

4番の間8 例えば親御さんに相談される場合は、イに当てはまるということでしょうか。

【事務局】

はいそうです。

【委員】

わかりました。

【会長】

就学前児童保護者用アンケートの19ページ問30の2、子育て支援施策について、4つそれぞれに問う方がわかりやすいのではと思ったところです。それと、自由記述を色々書きたいという方がおられて、最後だけしっかり書かれる方もいらっしゃるかもしれないので、問34の欄が意外と狭いのかなと思います。

高校生の委員がせっかく2名来ているので。若い世代の意見を聞こうと思いますが、何かありませんか。

小学生児童保護者用の10ページ①～⑬までで多少説明できるところは、短い言葉でいいので書いておくといいかなと。工夫していただくと思います。

【委員】

これだけ長いアンケートを、子育て中の保護者さんは忙しい中、大変だろうと思いました。19ページに渡るアンケートが、どれだけ今後の事業に反映されるのかというのが率直な感想でした。

【会長】

これは郵送で送って、郵送で回収ですか。

【事務局】

基本的にはそう考えています。

【会長】

回収率の目標はありますか。

【事務局】

50%は越えたいなと思っております。前回は無作為の抽出発送で、地域的な偏り等あった可能性があると思うのですが、今回は職員で行いますので、地域や保育園に入っている方、入っていない方割り振った上でアンケート調査したいと思っております。ページ数も多く、質問内容も多いのですが、国が示しています13事業並びに保育園の見込みを出すためには、書いていただかないと数値的に引き上げが出来ませんので、ご協力いただきたいと考えています。

【会長】

最初見た時に、ちょっと見てやめようと思うか、最後まで絶対書かなくちゃ、と思うか。日頃思っていることをどんどん出して、今後五年間の計画に活かされるということをやつとく必要がある。いただいたご意見は今後是非、施策に反映させます等書いて、そういうことで、活かされる可能性が0ではないと思われるような表記の工夫もしてもらいたいと思います。市の広報等で調査の重要性を訴えていただいて、関係各位でご協力をお願いするという体制でお願いしたい。幼稚園、保育園、認定こども園の関係者の方もいらっしゃいますので、情報提供していただいて、ご協力をお願いします。行政の方も情報提供されてください。あと、あまり低ければ、予定されていた日付をぎりぎりまで待つて回収率を上げていただき、なるべく多くの意見を吸い上げてください。

【委員】

回収率を100%近くあげたいと思えば、保護者会等で一律に読みながら、説明しながら行くと、早くて多く集まるのかなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。色々工夫はしたいと思います。

【委員】

資料1-2、6ページ、問10、放課後子ども教室が山鹿に1カ所あったと思うのですが、今存在するのでしょうか。

【事務局】

ございません。

【委員】

今までは、一年生から三年生まで預かっていましたが、国が六年生まで預かるようになることですので、今後どうなっていくのかということ。問11の中に祝日とありますが、祝日に他の学童は預かったことがあるのでしょうか。土曜保育、学校が振替の日などどれくらいの出席率あるのでしょうか。就学前対象のアンケートと、実際、働きながら子供を

放課後児童クラブに預けた時に誤差があるのではないかと思います。特別支援が必要な子供たちは、どういう風に反映されていくのかなど。

【会長】

学童保育の取り組み方としてどうですか。

【事務局】

学童保育としては、小学六年生まで受け入れるというところで、お願いしていますが、山鹿市としては全部が受け入れている訳ではなく、一部は、施設の広さや指導員の確保が難しく、受け入れが出来ていないのが現状です。市としては、補助等を使って施設の開所をされることもありますし、広報等で支援員の方の募集はしていますが、時間が特殊で夕方から働くというのが難しいということで、なかなか見付からないというのが現状です。祝日の開所としては、実際開所しているところはありません。ただ、休みの日も仕事をされている方もいらっしゃるので、どのくらい希望があるのか把握する為の質問ですので、すぐ祝日も開所になるという訳ではありません。療育については、年に5回研修を行っておりますが、来年以降も引き続き行っていきたいと思います。療育の部分で子供さんを預かるにあたって、職員が必要になったり、施設のクールダウンの部屋など必要になってきますので、市としても対応出来るようにしていきたいと思います。来年以降、菊鹿町のブレスさんが学童保育をされるということもありますし、研修会を行っていただければと思います。

アンケートにつきましては先程申しました通り、実態把握ということで実施したいと思っております。

【委員】

どこの学童保育もすごく人数が増えてまいりました。2クラスになったり、子ども課のみなさんが本当に良くしていただいているので、感謝しております。これからも見守ってほしいと思います。

【会長】

ありがとうございました。とりあえずここで一区切りにします。基本的なことですが、配偶者いらっしゃいますかという質問ですが、事実上の婚姻関係というか行政調査とかどうなっているのでしょうか。

【事務局】

配偶者の有無に関して、アンケートの結果が変わってくることはございませんので、記入していただく方の判断に委ねます。

【委員】

子供が住所を移して住んでいる施設にくる可能性はありますか。

【事務局】

前回の無作為抽出ではそのようなことも起こりますが、今回は、職員で抽出をかけて送付するので、施設に何通もくるということは無いようにします。

【会長】

わかりました。今日出たご意見ご要望全てを取り込めるかは、どうかはわかりませんが、事務局と私と少し案を練り直してみたいと思います。出来たものに関しては、郵送か何かでお知らせするようにして、実施しようと思います。実際、結果が出て、それをどう読むかは難しいですが、完璧なアンケート調査はありませんので。事務局も大変な作業となりますが、宜しくお願い致します。次は計画策定スケジュールについてお願いします。

【事務局】

それでは、資料4を見ていただきたいと思います。子ども子育て会議につきましては、今日と2月に計画させていただいております。今日頂いた意見を元にアンケート内容を詰めさせていただいた上で、次回の会議の前に、皆さんに案を送らせていただきたいと思います。2月の会議につきましては、資料3の計画の基本理念並びに基本目標は、次世代育成行動計画の内容を引く継いだかたちで、今の計画になっております。お手元のA3の資料が各課取り組んでいる事業になります。支援計画につきましては、アンケート調査に基づきます、主要13事業並びに、保育の量の見込みと、次世代育成事業から引き継いでおります事業の内容を柱として進めているところです。これを元に見込みを作らせていただき、13事業並びに保育の量を算出しようというところでもあります。それと基本理念、主要施策1から6までの主要項目も見直していきます。実際、次世代育成前期計画の10年前のものを引き継いでいることとなりますので、32年からの計画では、現状の内容とそぐわないことも出てきますし、各課の取り組み事業についても、廃止並びに変更になっている場合もございます。皆様方をお願いしたいのは、次回の会議でご意見いただき、2月の会議で詰めさせていただきたいと考えております。平成30年度の事業内容につきましては、2月の終わりから3月にかけて、各課から実績並びに評価をあげていただきます。それを取りまとめて、6月にまた会議を開催させていただき、皆様にお配りします基本理念、基本目標につきましては、確定をさせて頂きたく協議をお願いしたいと思います。子ども子育て会議につきましては、来年度3回開催予定で、10月にアンケート結果を踏まえた上で、内容の検討決定を行っていただいで、2月に計画全体の確定を行っていただければと思います。中段にあります庁内会議ですが、32年からの5ヵ年計画について、各課で検討させていただいて内容等詰めていきますので、3月、4月に庁内会議を行い、進めたいと思います。その内容を踏まえた上で、7月か11月に庁内会議で最終決定していきたいと思います。

備考に書いております内容につきましては、アンケートを4月中に配布して、5月の連休明けには回収しようと考えておまして、5月から6月にアンケートの集計結果を踏まえた上で、6月の子育て会議で報告という流れで行っていきたくと思います。最終的には11月の会議で内容を決定し、1月中に計画の発注を行っていきたくと思います。なるべく前倒しで進めたいと思いますので、宜しくお願い致します。

【会長】

改めて、資料3、基本理念、基本目標、主要施策をそれぞれの目線で、ここが足りない等アイデアをいただきたいと思います。子ども子育て支援事業計画を作るときは、保育所の0～2歳の待機児童解消が話題の中心だったかと思いますが、今もそうですが、小学生の学童保育も含めて、待機児童の捉え方も違ってきておりますし、障がいのあるなしに関わらず、様々なサービスが必要なところへ行くというインクルーシブな発想や時代や社会の捉え方、深まりを持って進めていかなければいけないと思います。

今、事務局から説明がありましたが、わたくしの方からお願いとしたいと思います。春の人事異動があった場合、前任者と後任者の引継ぎはきちんとしておくようお願いいたします。重要なポストの方々が理解しておかないとなかなか厳しい。横の繋がりも大切に。庁内会議をしつこい位に頻繁行ってください。横の風通しとともに、取り組みの濃淡と意識レベルの違いが無いようにやっていただきたい。そうしていただくと、我々の議論もより上手く実現できるのかなというところです。

～閉会～